

わかしゃち国体 第4日 柔道 主将の一本、勝利呼ぶ 成年男子

内容で東京突き放す 出げいと実り有終の美飾る 近藤主将

【愛知県】この大会に合わせて練習してきたので、涙が出てきてしまいました」。前日の成年女子に続いて優勝を飾った成年男子チームの中堅、近藤克幸主将(27)は喜びに声を弾ませた。

東京との決勝では、送り襟絞めで一本勝ち。最終の対戦成績は2-2の1分けとなった。が、この一本勝ちでのポイントが効いて、愛知に勝利を呼び込んだ。「みんなの足を引っ張らないように気を引き締めただけ。たまたま取れただけ」と照れた。

三好高の教員で担任は外れているが、練習に専念することはできない。練習相手にも恵まれず、柔道部の生徒を引き連れて、近くの中京大の道場へ通ったり、単身で関西方面の大学へ出げいこに出掛けたりして、自分を磨いてきた。

全国レベルの大会はこれが最後。今後は一線級を退いて後進の指導に当たる。この日は教え子の卒業生何人かが応援に駆けつけていた。「これ以上気持ち集中できなくなつたから。満足です」と、十七年間の競技生活に別れを告げた。